

# 九州における地域交通問題と 人材育成について考える —「地域と交通をサポートするネットワーク in Kyushu (Qサポネット)」の取り組みを通じて—

大井 尚司<sup>1</sup>・福田 恭平<sup>2</sup>・野中 智弘<sup>3</sup>・高塚 明<sup>4</sup>  
・白石 悦二<sup>5</sup>・梶田 佳孝<sup>6</sup>

<sup>1</sup>正会員 大分大学准教授 経済学部経営システム学科 (〒870-1192 大分県大分市旦野原700番地)  
E-mail:ooi-hisashi@oita-u.ac.jp

<sup>2</sup>非会員 国土交通省 (前・九州運輸局企画観光部交通企画課長)

<sup>3</sup>正会員 福岡県 企画・地域振興部交通政策課

<sup>4</sup>正会員 佐賀県 身近な移動手段確保推進室

<sup>5</sup>非会員 日本工営株式会社 福岡支店

<sup>6</sup>正会員 東海大学准教授 工学部

地域交通の持続可能性を考えるにあたって、九州のように地方部では、地域交通の問題にかかわる人材をどのように確保するかと、その人材のスキルをどのようにあげていくかが課題となっている。前者については交通事業者や自治体における「考える」人・組織の不足の問題があげられる。後者については、自治体や交通事業者の担当者が学べる場が九州にほとんどなかったことや、その時間の確保が厳しいことがあげられる。

本セッションでは、2010年より九州でこのような人材育成を行って5年になる「Qサポネット」の実践事例を踏まえ、地域交通問題と人材育成の課題について、なるべくさまざまな立場からの議論を展開していきたい。

**Key Words :** 地域公共交通, 人材育成, 自治体

## 1. 本セッションの開催趣旨

2007年の地域公共交通活性化再生法施行以後、地域公共交通の確保・維持については地方分権が進められ、近年では福祉有償輸送・自家用有償輸送の権限移譲も行われるまでに至っている。

地方自治体のみならず、地方では大学教員などの有識者、コンサルタント、交通事業者などあらゆる主体において、それぞれの事情から、地域公共交通の確保・維持に関する業務に従事する人材が十分とはいえない環境にあると考える。そこで、これらの人材を育成するため、コンサルタント、交通事業者、自治体それぞれへ向けた

学びの場（セミナー、シンポジウム、民間の研修会など）が展開されている。ただ、その多くはそれぞれの事業に向けた「専門知」の育成に主眼が置かれており、また需給の関係から地方部での開催機会は非常に限られたものであった。また、自治体・交通事業者は必要最小限の人材で複数業務をこなし、地域公共交通の確保・維持に専従できる人材を確保できるところが非常に少ないことから、他の業務とのバランスや必要性から、「専門知」のみを学ぶ機会にさほど時間をさけない現実も見られる。

地域交通の持続可能性を考えるにあたって、九州のように地方部では、地域交通の問題にかかわる人材をどの

ように確保するかと、その人材のスキルをどのようにあげていくかが課題となっている。本セッションでは、2010年より九州でこのような人材育成を行って5年になる「Qサポネット」の実践事例を踏まえ、5年の取り組みの総括も兼ねて、地域交通問題と人材育成の課題について、なるべくさまざまな立場からの議論を展開していきたい。

## 2. セッションの構成【話題提供】

本スペシャルセッションは、限られた時間でもあるので、以下のような構成で進めていきたいと考えている。

### (1) 問題提起

大井から、Qサポネットのこれまでの取り組みを簡単に紹介して、本セッションの問題提起を行う。

### (2) 自治体の取り組み

福岡県と佐賀県では、Qサポネットとの一部連携や協力関係から、地域公共交通に関わる人材育成の取り組みを積極的に行ってきたが、課題も見られる。

まず、話題提供で、両県の担当から地域公共交通に関する人材育成の取り組みと、そこから見られた課題について整理を行いたい。

### (3) コンサルタントの取り組み

地域公共交通に関する業務では、コンサルタントの役割が重要である。ただ、その業務内容によっては地域公共交通の確保維持に関する品質に大きな差が出ることもあり、ある程度へのレベルアップや均質化が求められているといってもよい。ここでは、これまでQサポネットの創立から中心的に携わったコンサルタント会社の社員

(Qサポネット世話人)により、コンサルタントの人材育成に関する問題意識と、Qサポネットの位置づけについて話題提供いただく。

### (4) 【調整中】交通事業者の取り組み

交通事業者からの登壇が可能になれば、交通事業者における地域公共交通への取り組みと、それに関わる人材育成に関する問題意識を紹介いただくことを考えている。

## 3. パネルディスカッションとフロアとの討議

話題提供を踏まえ、今回の発表者6人による討議を行う。まず、九州で国土交通行政に携わり、今回の我々の人材育成の取り組みを支援していただいた前九州運輸局交通企画課長の福田氏からコメントと問題意識をお話いただき、Qサポネット世話人で九州にいらっしゃった梶田先生から全体的なコメントを頂く。

その上で、

- ① Qサポネットのような組織（集まり）の存在意義はどこにあったのか
- ② 今後地方の地域公共交通に関する人材育成の仕組みはどうあるべきか
- ③ 関係するステークホルダーがどのように関わっていくべきか
- ④ 今後Qサポネットのようながどうあるべきか、について、フロアも交えながら議論を深めたいと考えている。

(2015.4.24 受付)

## DISCUSSION ABOUT MANAGEMENT OF REGIONAL TRANSPORTATION AND HUMAN RESOURCE DEVELOPMENT IN KYUSHU -BASED ON ACTIVITIES IN COMMUNITY AND TRANSPORTATION SUPPORT NETWORK IN KYUSHU(Q-suppo net)-

Hisashi OOI, Kyohei FUKUDA, Tomohiro NONAKA, Akira TAKATSUKA,  
Etsuji SHIRAIISHI and Yoshitaka KAJITA

Considering the sustainability of local traffic, in the rural areas as of Kyushu, the important problems are how to ensure the human resources involved in regional traffic problems and raise their skill. Especially, important issues are lack of "management" staffs and organizations in the transportation operators and local governments, and few opportunities of their learning.

In this session, we would like to discuss about the such problems, based on the practice from 2010 to now on in "Q suppo net (Community and Transportation Support Network in Kyushu)".